

みやぎご当地トピック



園主の千葉一平さんと奥様

南三陸町

みなと果実園

南三陸町にある
みなと果実園で
園主を務める
千葉一平さんに
お話を伺いました。



南三陸町

“南三陸町ならではの”栽培方法にこだわった「しおかぜ葡萄」!

「しおかぜ葡萄(ぶどう)」は、南三陸町の潮風をたっぷり浴びて育った、みずみずしく大粒のぶどうです。環境へのやさしさを大切に、ホタテやカキの貝殻、バイオマス施設から出る液肥など、町に眠る未利用資源を活かしながら、“南三陸町ならではの”方法で育てられています。2024年に誕生した新しいブランドで、現在は町内の14名の生産者さんがそれぞれの畑で栽培を続けています。

南三陸大粒ぶどう協議会の一員である、みなと果実園の園主・千葉一平さんにお話を伺うと、「ハウス2棟からのスタートで、今では約20品種を育てています。これからも“南三陸町産”を前面に打ち出し、販路の拡大を目指したいですね」と、力強く語ってくれました。宮城県や南三陸町、新みやぎ農業協同組合南三陸統括営農センターの協力のもと、生産者みんなで技術を磨きながら、美味しいぶどうづくりに励んでいます。

「しおかぜ葡萄」は9月から11月頃にかけて、南三陸町や近隣の直売所などで販売されています。「しおかぜ葡萄」を使ったスイーツやお菓子も人気ですので、ぜひ一度味わってみてくださいね。



直売所に並んだ大粒のぶどう

みなと果実園

住所 宮城県本吉郡南三陸町歌津字長羽143-8 TEL 0226-36-3028

販売予約受付 8月上旬頃から完全予約注文(要事前連絡)のみ受付 販売 9月から11月頃にかけて

原子力発電に関するセミナー・ナノテラスの見学会を開催します! /

演題:原子力発電の仕組み、安全対策、核燃料サイクル



講師

出光 一哉氏

東北大学
金属材料研究所
附属量子エネルギー材料科学
国際研究センター
特任教授

日時 令和8年2月5日(木) 13:30~16:10(開場13:00)

定員・費用 先着30名 / 参加無料

会場 ・東北大学SRIS研究棟1階アントレプレナーホール
・3GeV高輝度放射光施設NanoTerasu(ナノテラス)

申し込み方法 12月15日(月)から1月20日(火)までに宮城県電子申請システム(LOGOフォーム)にてお申し込みください。

【原子力安全対策課】

gentaia@pref.miyagi.lg.jp

022(211)2607

その他の詳細については
QRコードからHPを
ご覧ください。

お申し込みはこちら



女川原子力発電所運転状況のお知らせ

1号機

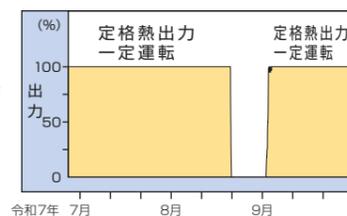
廃止措置中

- ◎燃料搬出作業
- ◎汚染状況調査
- ◎管理区域外設備の解体撤去等

2号機

電気出力
825,000kW

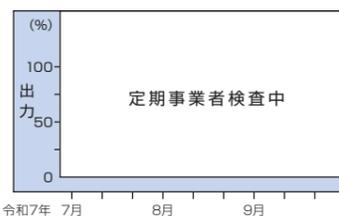
- ◎8/21 6:31 中間停止
- ◎8/30 18:00 原子炉起動
- ◎9/1 18:00 発電再開



令和7年 7月 8月 9月

3号機

電気出力
825,000kW



令和7年 7月 8月 9月

原子力だよりみやぎ

宮城県復興・危機管理部原子力安全対策課
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/gentai/

原子力だよりみやぎへのご意見ご感想がありましたら、
こちらまでお寄せください。

TEL.022-211-2607 FAX.022-211-2695
E-mail:gentai@pref.miyagi.lg.jp

この広報誌は86,000部作成し1部あたりの単価は
約11円となっています。



原子力だより

みやぎ

冬号

VOL.171
WINTER
2025



撮影地:南三陸町「みなと果実園」。園主の千葉一平さん。

02. 原子力防災訓練を実施しました

令和7年11月11日(火)、令和7年11月15日(土)に
県と関係7市町は原子力防災訓練を実施しました。

04. 女川原子力発電所周辺の環境放射能調査結果 環境への影響は認められませんでした

06. 女川原子力発電所周辺の温排水調査結果 環境への影響は認められませんでした

08. みやぎご当地トピック

原子力防災訓練を実施しました

令和7年11月11日(火)、令和7年11月15日(土)に県と関係7市町は原子力防災訓練を実施しました(令和8年1月24日にも一部地区の住民避難訓練を実施します)。



訓練実施内容

目的

原子力災害発生時における関係機関の防災体制や相互連携にかかる実効性を確認するほか、各種計画やマニュアル等に基づく手順を確認するとともに、関係機関やその要員における原子力防災技術の向上や原子力防災に関する住民の理解促進を図るもの。

また、「女川地域の緊急時対応」を検証するとともに、訓練結果を踏まえた教訓事項の抽出・改善を図るもの。

令和7年度訓練の特徴

図上訓練(11月11日)

●92機関約300人が参加し、女川オフサイトセンターをはじめ、県庁、関係市町において、原子力災害時の対応の手順等を確認しました。

住民避難訓練(11月15日)

●住民が参加し、避難先までの避難経路の確認や、アプリによる避難所での受付などを体験いただきました。
 ●孤立地域を想定したドローンによる物資供給訓練や、新たに整備されたヘリポートを活用して、空路避難訓練を実施しました。

※令和8年1月24日には、石巻市から加美町への住民避難訓練を実施します。

図上訓練

女川原子力発電所からの放射性物質の放出前後を想定したPAZ・UPZ住民の避難、一時移転に係る調整や、オフサイトセンターと関係7市町をテレビ会議で接続し、住民避難の情報共有などを行いました。

また、緊急時モニタリング活動訓練では、可搬型モニタリングポストの設置や土壌採取の手順を確認しました。



①原子力災害合同対策協議会全体会議(女川オフサイトセンター)



②可搬型モニタリングポストの設置(女川オフサイトセンター)



③避難退域時検査場所での車両指定箇所検査(登米市登米総合体育館)

住民避難訓練

女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町で住民参加型の避難訓練を行いました。

訓練には住民193人が参加し、避難退域時検査場所における検査やアプリを活用した避難などを体験いただきました。

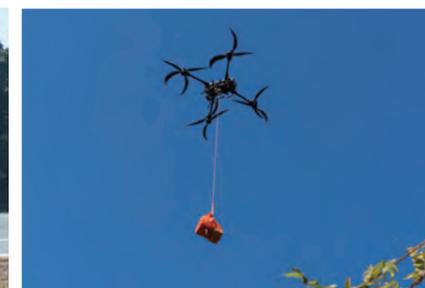
孤立地域を想定した訓練では、県の災害時応援協定締結事業者において、実際に物資を積載したドローンのデモフライトを実施したほか、石巻市雄勝地区では、新たに整備されたヘリポートを活用し、ヘリコプターによる住民避難訓練を実施しました。



①アプリによる避難所受付(登米市中田農村環境改善センター)



②ヘリコプターによる空路避難訓練(旧大須小学校ヘリポート)



③ドローンによる物資供給訓練(登米市中田農村環境改善センター)

女川原子力発電所周辺の 環境放射能調査結果

令和7年7月～
令和7年9月

今期の環境放射能調査結果を評価したところ、女川原子力発電所に起因する環境への影響は認められませんでした。

1 放射線の強さ (空間ガンマ線量率)

今期の調査結果では、下図のように東京電力(株)福島第一原子力発電所事故前における測定値の範囲内でした。

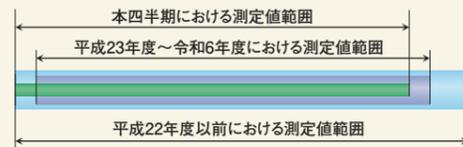
モニタリングステーション、モニタリングポイント及び放水口モニター設置地点



- モニタリングステーション**
- 宮城県 (7)
 - ◆ 宮城県(広域) (10)
 - 東北電力 (4)
- モニタリングポイント**
- 宮城県 (12)
 - 東北電力 (9)
- 放水口モニター**
- ▲ 東北電力 (3)

「◆宮城県(広域)」の10局は、女川原子力発電所から10～30kmの範囲で県が平成25年度から測定を開始したモニタリングステーションです。モニタリングステーションには、放射線を測定する精密機器や、気象を観測する風向風速計などの測定器を設置しています。

グラフの見方



令和7年7月～9月の測定結果

モニタリングステーション	ナノグレイ/時							広域モニタリングステーション	ナノグレイ/時						
	20	40	60	80	100	120	140		160	20	40	60	80	100	120
● 女川	[Bar chart showing range]							◆ 石巻稲井	[Bar chart showing range]						
● 飯子浜*1	[Bar chart showing range]							◆ 雄勝	[Bar chart showing range]						
● 小屋取	[Bar chart showing range]							◆ 河南	[Bar chart showing range]						
● 寄磯	[Bar chart showing range]							◆ 河北	[Bar chart showing range]						
● 鮫浦*1	[Bar chart showing range]							◆ 北上	[Bar chart showing range]						
● 谷川*1	[Bar chart showing range]							◆ 鳴瀬	[Bar chart showing range]						
● 荻浜*1	[Bar chart showing range]							◆ 南郷	[Bar chart showing range]						
● 塚浜	[Bar chart showing range]							◆ 涌谷	[Bar chart showing range]						
● 寺間	[Bar chart showing range]							◆ 津山	[Bar chart showing range]						
● 江島	[Bar chart showing range]							◆ 志津川	[Bar chart showing range]						
● 前網	[Bar chart showing range]														

*1 : 令和元年度から運用開始

用語説明

【ナノグレイ(nGy)]放射線に関する単位で、「物質や組織が放射線のエネルギーをどのくらい吸収したかを表す吸収線量の単位」をグレイ(Gy)といいます。ナノグレイ(nGy)は、その10億分の1を表します。

【ベクレル(Bq)]放射能を表す単位で、1ベクレルとは「1秒間に1個の原子が壊れ、放射線を放出すること」を表します。

2 環境試料中の放射能濃度

今期の環境試料中の放射能濃度の調査結果は、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故前の測定値の範囲を超過する試料がありましたが、事故前の測定値の範囲内まで低減している試料もあり、放射能濃度は減少傾向が見られています。なお、その超過した原因は女川原子力発電所の運転状況等から、福島第一原子力発電所事故によるものと考えられます。

令和7年7月～9月の測定結果

種別	試料名(試料数)	採取月	核種	放射能測定結果(対数表示)						福島第一原子力発電所事故後5年間の最大値	単位
				0.01	0.1	1	10	100	1000		
降下物(月間)	雨水・ちり(9)	7,8,9 *2	Cs-137	[Bar chart]						9,248	Bq/m ³
降下物(四半期間)	雨水・ちり(5)	7~9 *3	Cs-137	[Bar chart]						8,438	Bq/m ³
指標植物	ヨモギ(2)	7	Sr-90	[Bar chart]						0.54	Bq/kg生
	ヨモギ(2)	7	Cs-137	[Bar chart]						40.1	Bq/kg生
指標植物	松葉(1)	8	Cs-137	[Bar chart]						1,476	Bq/kg生
	アイナメ(1)	7	Cs-137	[Bar chart]						10.16	Bq/kg生
海水	表層水(2)	7	Cs-137	[Bar chart]						98	mBq/L
海底土	表層土(砂)(2)	7	Cs-137	[Bar chart]						299	Bq/kg乾土
指標海産物	アラメ(2)	8	Sr-90	[Bar chart]						0.042	Bq/kg生
	アラメ(3)	8,9	Cs-137	[Bar chart]						12.76	Bq/kg生

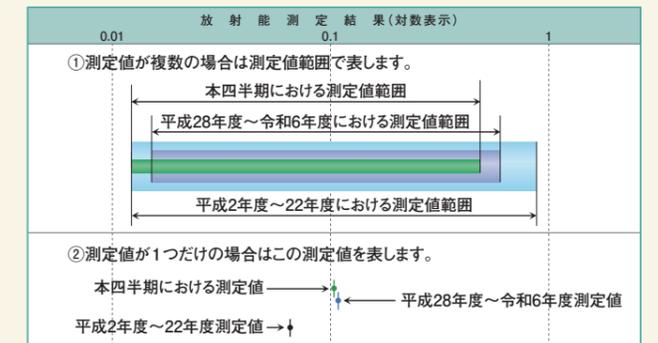
*2 : 7, 8, 9月の1ヶ月ごとに採取した結果 *3 : 7~9月の3ヶ月間継続して採取した結果

令和7年7月～9月の調査で放射能濃度が検出されなかった試料とその放射性核種名

試料名	放射性核種*4
水道原水、海水	H-3
アイナメ、マボヤ、ムラサキガイ	Sr-90
水道原水、浮遊じん、マボヤ、キタムラサキウニ、ムラサキガイ	Cs-137
海水、アラメ	I-131

*4 : 放射性核種 / H-3…トリチウム Sr-90…ストロンチウム90 Cs-137…セシウム137 I-131…ヨウ素131

グラフの見方



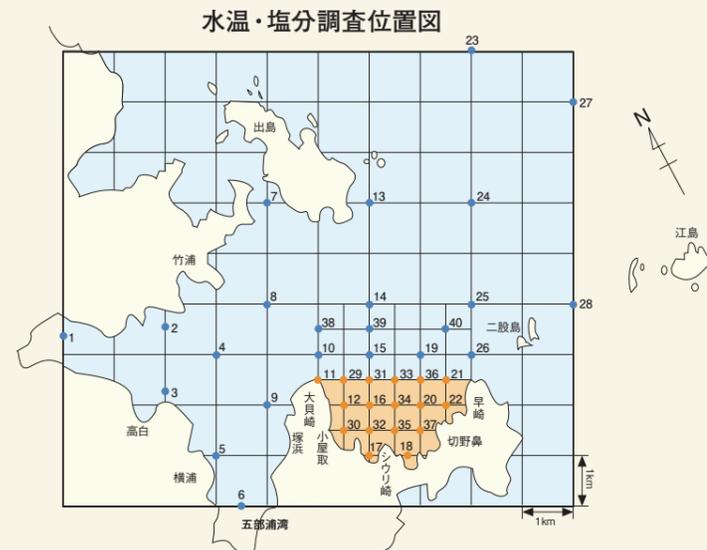
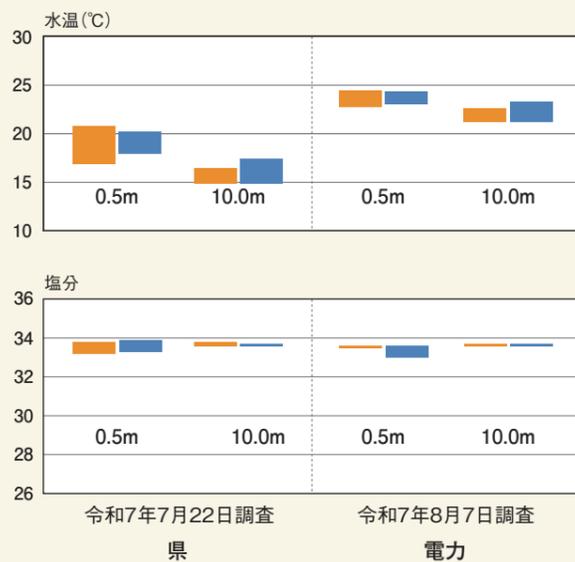
女川原子力発電所周辺の 温排水調査結果

令和7年7月～
令和7年9月

今期の調査の結果、女川原子力発電所周辺において温排水によると考えられる異常な値は、観測されませんでした。

1 水温・塩分調査

今期の調査結果から、温排水によると考えられる異常な値は、観測されませんでした。



■ 前面海域 ■ 周辺海域

注1 前面海域とは大貝崎と早崎を結ぶ線の内側(調査点11,12,16,17,18,20,21,22,29-37)をいいます。

注2 0.5m、10.0mは、調査水深を表しています。

用語説明

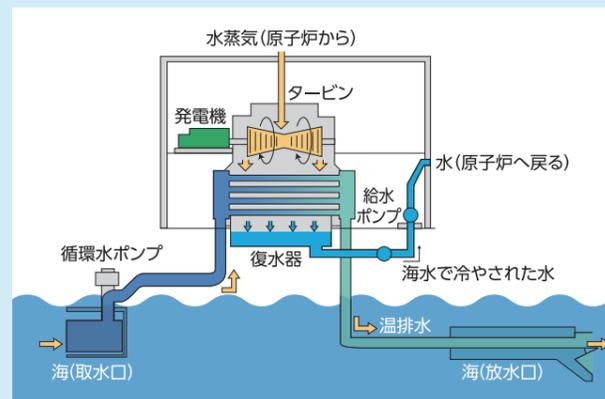
温排水

原子力発電所や火力発電所が稼働中の場合、蒸気の手でタービンを回して電気を作っています。

タービンを回した後の蒸気は、海水で冷やされて水に戻ります。この蒸気を冷やした後の海水は、取水した時の温度より少し上昇して海に戻ります。これを「温排水」と呼んでいます。

温排水は、自然の海水温度よりわずかに温度が高くなっていますが、周辺の海水と混ざり合って、温度を下げながら拡散し、自然の海水温度に戻ります。

女川原子力発電所では、温排水が発電所の前面海域及び周辺海域へ与える影響を把握するため、発電所の前面海域及び周辺海域の43調査点で、定期的に調査を行っています。



2 水温連続モニタリングによる水温調査

8月の湾中央(C)で過去の測定値範囲を超える高い水温(+0.4°C)が確認され、沖合から流入した黒潮系の暖水の影響によるものと考えられました。

(イ) 水温測定範囲

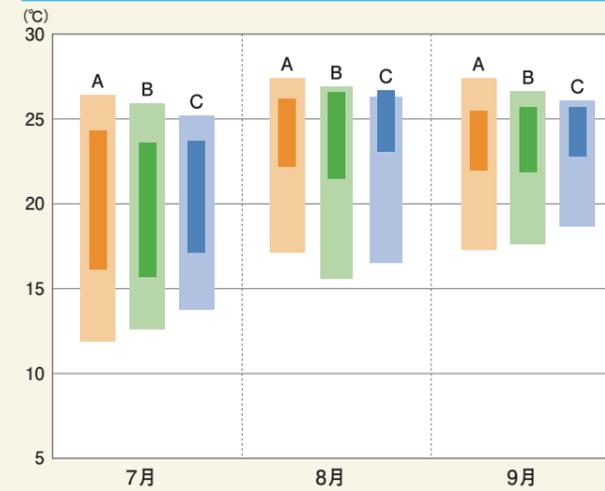
グラフの見方

水温連続モニタリングにより海水温を測定しています。



- A:女川湾沿岸(St.1~5,11) 県調査地点
- ★ B:前面海域(St.6,8,9,12,14) 東北電力調査地点
- C:湾中央(St.7) 東北電力調査地点
- ★ 陸域放流前(St.10,13,15) 東北電力調査地点

令和7年7月～9月



水温調査(モニタリング)位置図



(ロ) 測定点間の水温較差

令和7年7月～9月

